『國民新報』1940年7月21日

[主張]　政變と吾等

　がをした。これはにらんがための一のとせられる。のにするがになつてゐるのだが、それは日より日へりくのの一にぎないのであつて、げられた一がどのからであつても、それはのであることにりはないとふ。

、ののやがのむにつれて、するのはであつて、のはの、は、そのは、、そしてには、、などをむなるをまざるをないやうにしてたのである。く行くははまでもへて、とらずアジアのといふにすることもありるとふ。またそこまでかなくてはではない。

　のにつれて、、、、（もう々などゝをふにもるまい）がわがのといふことがかにされた。しかもはのといふにをして、これらのにしてめてなりをしてたのである。ところがルート、、ビルマルートなどのによつてかにされたやうに、は、のなのをいことにして、あたかもをふがく蔣のをしようとせずつて々をへる一であつた。かのなどはとにわがによつて目茶に打ちのめされたるにらず、にしてのをめない。これはそもそもふののによることで、がそのひよろひよろをにしてを睨んでゐるのもそのためなのだ。ではとのを一のとし、をしてそのにらしめたのであるが、それによつてをたか。

　それはビルマルートのにする、三月はどうせのにぎないのだから々の、をにしたほざきにぎないではないか。

　はもつとののさとにのとをしなければならない。そしてこののためもつとを一ししなければならない。がになつているゼントルマンに一もくいてつて、にえるゝにをらせなければならない。そしてもつときつぱりした、りいをして、もつと、をし、、アジアにをけ、のきをしているに一をはして、にをせてやらなくてはならない。さうするにはこそ千一ので、このをしたらを千のにのこすであらう。はしくとがつちりをんで々にするをすべきである。

　それにしてもはのだ。千年ののために、一、をてゝをつてつたの一となるをすることがである。なるにもへばう、なるをもげようというがつてはじめて、このはしげられるのだ。

　のよ。のは々きをへるのだ。やな、なをあつさりとして日ののをてかゝるである。このたずば吾はぶ、このたば、吾にのとがあるのだ。がどうふだらうなどにすることはない。はで、のを一でつたでしようではないか。

　もしげよう、もしげよう。ありとあらゆるをのためにしげるはたのだ。

されたのと、まつたとはにたるととをしてゐる。わがの千一のは、のためには二に千一のなのだ。